

<基本情報>

所在地：福岡県八女郡広川町

<農場概要>

- びわ45a、全て有機 J A S 認証を取得
- 他に桃（ハウス、露地）、ぶどう（雨よけ）、ブロッコリー、水稻を栽培（びわ以外は非有機）



<有機農業に取組むきっかけ>

- 以前は、町内に4名のびわ農家がいたが離農等により減少し自分一人となった。
生産量では他産地との競争に勝てないため、差別化が必要と判断し、食の安全安心に着目し有機栽培を開始。
- **平成17年（2005年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 販売先の大半は J A だが、有機農産物取扱業者へも販売。
有機農産物取扱業者への販売量が徐々に増えており、現在では3割近くを占めている。
- 「有機びわ」は、化粧箱（500g）とパック（250g）の2種類で販売。
- いわゆる規格外品は殆ど発生しないため、果実を使用した加工品はないが、葉を使用した「有機びわ茶」を有機加工 J A S 認定事業者へ製造委託し、販売。
- 全て国内販売のみで輸出は行っていない。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
害虫は、管理作業で圃場巡回する際に捕殺。
- 雑草対策
草刈り機による除草に加えて補助的に人手による除草。
- 土づくり
米ぬかに籾殻を混合した自家製有機堆肥による施肥。

<苦労しているところ>

- 害虫は、捕殺で行っているため大変な手間が掛かっている状況。
- 除草作業は、乗用草刈り機を使用できないため背負い式の草刈り機で行っており重労働。現在、乗用草刈り機を使用できるように下枝払いにより樹形を整えているところ。

<現場の課題>

- 今後も有機農業を継続していくが、有機 J A S 認定取得後の毎年の継続審査費用が結構かかるため、国で支援いただきたい。
- 消費者の認知度を高めるため小売店にオーガニック売場の設置を義務化することで、消費が増え、生産も増えるという好循環が生じるのではないかと。



<基本情報>

所在地：佐賀県鹿島市

<農場概要>

- 経営面積：33ha（約10haは改植後未収穫期間中）※全面積有機栽培
- 栽培品目：柑橘類（温州みかん、レモン、ポンカン、だいだい等）
- 従業員14名(代表を含む。)



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 慣行栽培では、自身も含め篤農家ほど農薬散布が多く薬害と思われる病気や体調不良に見まわれる実態を目の当たりにし、農家自身が健康でなければならないと考えたこと。
- 昭和63年に全面有機栽培に転換し、有機JAS制度が始まった
平成13年（2001年）から有機JAS認証を取得。

<販売について>

- 生果は国産オーガニック専門店、生協パルシステム等に販売している。有機の引き合いは強く、注文に応じきれないほどである。インターネットで、「鹿島みかん村」としても販売している。
- 生果のほか、**ジュース、ドライフルーツ、ジェラート等の加工・販売**も行っている。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- **病虫害対策**：「有機」表示のできる農薬として、殺菌剤のイオウフロアブル及びI Cボルドー66D、殺虫剤のマシン油を使用。黒点病菌の発生源の枯死枝を適確に除去し、園外で処理。
- **雑草対策**：草の種を撒き、やわらかい春草を増やして棒で倒すことで、芯の硬い夏草の発生を抑える「草倒し農法」を実践。草があることで、土壌環境が改善され、紫外線が直接地面に当たらないため微生物が増え、くもなど昆虫が住む生態系が形成され、食物連鎖の中で大量の害虫発生も抑えることができる。
- **土づくり**：発酵鶏糞や発酵させたみかんの絞りかす、枯れ草等を利用した土づくりを実施。



<現場の課題>

- 輸送コストの高騰、JAS認証更新費用等の経費が経営を圧迫している。
- 収穫期には作業員を増員する必要があるが、パート雇用者も高齢化しており人員確保が難しくなっている。

<今後の展望>

- 現状では、生果の引き合いは強く、今後も離農する農家の農地を引き受け経営規模の拡大を目指す、経費と収益の関係もよく見ていく必要がある。

【お問合せ先】TEL.0954-62-8334

会社ホームページ <https://mikan-satou.jp/>

＜基本情報＞ 所在地：長崎県雲仙市吾妻町

＜農場概要＞ 有機 J A S 認証ほ場約2.2ha（オリーブ：600本）
従業員：代表含む3名（別途、ほ場での除草作業や
加工作業を福祉施設に依頼（農福連携））



＜有機農業に取り組むきっかけ＞

- 農業関連各種機械装置の開発を行う会社を営んでおり、小豆島のオリーブ産地から搾油機のメンテナンスを依頼され、産地を訪れるうちに栽培に興味を持ち、会社の農業部門としてオリーブ栽培を開始（2008年）。
平成28年（2016年）、ナチュラルファーマーミング合同会社として分社化。海外では、オリーブ葉は医薬品として販売されていることから、健康を意識し当初から葉に特化した有機栽培を実践。
- **令和元年（2019年）有機 J A S 認証取得（農産物、加工品）。**



＜販売について＞

- 県内のテーマパーク、空港、駅、直売所等、地元での販売。その他、食品卸やネット通販。
顧客拡大を図るために県内外の百貨店で
の催事出展。



＜取扱商品について＞

- リーフ（葉）を製品化。
【リーフティー（パック、パウダー）、ノンアルコール飲料、アイスクリームを主とし、副次的に生産したオリーブオイルも販売】



＜病害虫対策・除草対策＞

- 毎日、園地を巡回し、剪定、虫とり、草刈りを実施。
樹間が広く、除草は、乗用管理機が基本で樹木の周辺は手刈り。
また、病害虫対策として、にんにくや唐辛子のエキスを散布。

＜土づくり＞

- 牡蠣焼き小屋から分けてもらった牡蠣殻を、1年ねかせて散布。



＜苦労している（した）ところ＞

- 農業参入する際に50a以上の農地を必要としたが、農地が見つからず、耕作放棄地を借り受け。ほ場は、元々レンコン畑だったため、排水や土づくりに重機による客土造成を行った。
- 自社農園、加工場による安心安全、品質・衛生管理の徹底。

＜今後の展開＞

- 当初、自社以外オリーブリーフ茶を製造・販売する所はなかったが、最近、他産地も参入。他産地のものには「苦くておいしくない」と評価されたものもあり、当社の販売にも影響を受けたため、差別化に向け、基準（例えば、残留農薬200項目未検出、苦み成分でもあるオレウロペインの含有量等）を策定し、取り扱うことを検討中。
- 長崎雲仙を平和（有機・笑顔）のオリーブの町にする。
- 日本唯一の有機オリーブのプラットフォームとなる事を目指す。

【お問合せ先】TEL. 0957-51-4554

ホームページ：<https://unzen-naturalfarming.com>

<基本情報>

所在地：熊本県葦北郡芦北町田浦

<農場概要>

- 柑橘類 15ha（レモン、はるか、せとか、不知火、甘夏、津之輝（つのかがやき）等）
- 甘夏 50a で有機 J A S 認証取得

鶴田ご夫妻は農林水産省広報誌「aff」にも紹介されました。（2019年4月号より）⇒



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 明治33年（1900年）にレモンやネーブル、グレープフルーツなどの苗木を導入（当時では先進的農家）。
- 昭和50年（1975年）頃の甘夏の黄金期に、先代と現会長が、甘夏の食味が落ちたと感じたことをきっかけに、その原因を研究し、果樹栽培には微生物を意識した土づくりが重要と認識。減農薬・無化学肥料による果樹の持続可能な栽培方法に取り組み、平成6年（1994年）に会社設立。
- **平成15年（2003年）に「甘夏」で有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 有機 J A S 認証の甘夏（以下「有機甘夏」）の8割は（株）マルタ（全国展開の関連卸売流通会社）を通じWEB等で消費者へ、残り2割は消費者へ直接販売。販売価格は、認証品でない通常の甘夏の1～2割高くらい。
- 有機甘夏の味は各方面から好評で、**収量も認証品でないものと遜色ない。**
- 有機甘夏以外にも特別栽培農法で生産し、（株）マルタを通じ、消費者や大手スーパー、生協、学校給食向けに販売。



* 2019年6月のG20新潟農業大臣会合の場にも出展（紹介チラシ）⇒⇒⇒



<鶴田有機農園の有機栽培>

- 有機栽培のポイント
有機栽培のポイントは“適期に作業を行なう”こと。常に天候など念頭において、樹にとっての最適な時期を見極め、雑草管理、施肥、剪定、摘果等の作業を行なうことが大切。
- 土づくり
微生物のバランスを整えることが重要。土の表面から20cmくらいまでを良い微生物に支配させると、作物全体のバランスを整えることができる。
魚カスや菜種カス等15種類以上の有機原料を発酵させた堆肥（（株）マルタ・グループが製造）を園地全体に散布している。
- 病害虫・雑草対策
圃場周辺に草花を生やしておくなど、病害虫の天敵が住みよい環境を確保することが重要。
雑草対策は、園地全体を見ながら適期の除草が必要。土が安定してくると樹に絡みつような雑草がなくなる。

<現場の課題>

- 日本の有機栽培農家は、栽培技術的には十分にやっつけられるが、販売価格への転嫁ができず行き詰まっている。



<人材育成>

- 次世代を担う人材育成を目的に、平成9年（1997年）頃から研修生の受入れを開始。独立した修了生の中には、熊本県外から就農し甘夏栽培（有機 J A S 認証取得）を始めた農業者もある。

<今後の対応など>

- 今後は、レモン、はるか（柑橘）の有機 J A S 認証取得を計画。

【お問合せ先】TEL.0966-87-0061

会社ホームページ <http://tsurudayuukinouen.web.fc2.com/>

<基本情報>

所在地：熊本県宇城市不知火町

(令和2年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール生産局長賞受賞)

<農場概要>

- 16ha (うち有機JAS認証13ha トマト、ショウガ、柑橘等)
- 2015年に自社加工所を設立し、トマト、ショウガ、柑橘等の加工品を生産 (加工所は、有機JAS加工食品の認定取得)



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 「農業は自然を守る産業であること」という信念のもと、有機栽培で自立できる農業を目指し、町内で有機農業に取り組んでいた澤村氏を中心に、2001年に柑橘農家4戸、野菜農家2戸の計6戸で設立。2003年に法人化。
- **平成10年(1998年)に有機JAS認証取得を開始し、現在、施設と露地の全ほ場にて有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 販売は、生協関係と量販店に約5割程度ずつ出荷。また、少量ではあるが、県内の直売所や自社オンラインショップでも販売。
- 都市圏へ空荷で帰るトラックに着目し、運送会社との提携により、帰り便を積極的に利用することで、効率的に出荷するとともに出荷コスト削減

<消費者への情報発信について>

- 年に1回、消費者等との交流を目的にほ場見学、農業体験ツアーを開催。
小売店と協力し、生産物に対するアンケートを実施し、消費者ニーズを把握。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
腐敗するような資材は投入せず、虫害発生が少ない時期に栽培。ハウス内は加湿状態としない等の環境負荷をかけない栽培を行うことで病虫害を抑制。また、タケノコや山菜等から抽出した天然エキスを使用する。
- 雑草対策
通路や畝の上にカヤやわらを敷くことにより、雑草発生を抑制。
- 土づくり
土壌バランスを重視し、野草堆肥及びボカシ肥料を施用。
野草堆肥は、2年程熟成。また、ボカシ肥料は米ぬかを中心に魚粉やカキ殻等加え、自社肥料製造施設で製造。
土壌分析に加え、野草堆肥とボカシ肥料の成分分析も毎年実施することで、土の状態を常に把握するよう努めている。

<苦労したところ>

- 有機栽培を始めた頃は、販路拡大のため積極的に売り込んだがうまくいかなかった。その後の品質向上により自然と販路が拡大した。

<今後の展開>

- 主作物のトマトは、4~6月出荷を主な作型とし、塩トマトが収穫できる海岸地域は、11~5月出荷としている。
近年、高原地域(阿蘇)で夏秋栽培開始し、周年出荷を目指す。



【お問合せ先】TEL. 0964-33-7240

ホームページ: <http://higoayuminokai.co.jp/>

有機農業の取組 No.32 大分有機かぼす農園株式会社 令和元年10月現在

<基本情報>

所在地：大分県臼杵市

<農場概要>

- かぼす：4ha
(有機JAS認証：3ha、転換中：1ha)
- 日本で唯一有機JAS認証のかぼす農園



<有機農業に取組むきっかけ>

- 平成22年(2010年)、勤務していたかぼす農園の廃業に伴い、農園を引継ぐ形で会社を設立。会社設立を機に差別化を図るため有機栽培に取り組む。
- 平成23年(2011年)に有機JAS認証(有機農産物)を取得。
- 平成30年(2018年)に有機JAS認証(有機加工食品)を取得。

<販売について>

- 青果と果汁を卸売業者、インターネット通販、グリーンコープなどに販売。
- 果汁は、自社で搾汁・ボトルリングし、有機かぼす果汁100%として販売。
- 近年、家庭用の加工用原料として、規格外品の販売を開始。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
土を健康にして、樹を健康に育てることが基本。樹の自己免疫機能を高め病虫害に強い樹にすることを大切にしている。
- 雑草対策
刈払い機と乗用草刈り機で年3回程度行う。地面が見えるまで刈らずある程度の高さを残すことで、草が夜露を集め土壌の保湿効果がある。
- 土づくり
特別な土づくりは行っていないが、刈取った雑草をその場に残すことで分解し肥料となる。その土地の雑草を肥料にするのが最も良い。

<苦労しているところ>

- 有機栽培ゆえに人件費がかかる。草刈りにしても作業に何日もかけることで、当然人件費がかかる。

<現場の課題>

- 現状の規模をいかに維持していくかが課題。

<今後の対応>

- 新たな販路として輸出を検討中。青果をEU(フランス)へ、果汁を台湾へ。



【お問合せ先】TEL.097-578-1600

会社ホームページ <https://kabosu0974.jimdo.com/>

<基本情報>

所在地：宮崎県都城市

<農場概要>

- 梅 約7ha (1,800本) 品種：鶯宿梅 (全体の約7割)、光友一号、白加賀など
- 無農薬で栽培し、自社で無添加加工・製造を行い販売。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 終戦直後、農薬により虫などがいなくなったり、土壌が固くなるなどの現場を見て、無農薬の自然栽培を目指した。
- 企業理念は、食べ物はずべて「土から生まれて土にかえる」。

<販売について>

- 青梅の収穫量は年間約15～20トン。
- 青果として市場に販売すると、原価割れの価格となるため、自ら価格を決定できる自家加工品として、直接販売を行っている。
- バイヤーから輸出の誘いもあったが、国内販売を優先している。
- 「都城盆地鶯宿梅の梅干し」が原料と製法にこだわった地域食品ブランド「本場の本物」の認定を宮崎県内で初めて受けた。



【お問合せ先】TEL. 0986-22-6325 Fax. 0986-22-2809
会社ホームページ

<https://www.koubaien.com>

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
梅の周りに深い溝を掘り、大量の堆肥投入により樹勢を強くすることで病害虫の被害を抑え、被害を受けた枝は小まめに剪定するなど小まめに対処している。
- 雑草対策
刈払機で年に6回前後。
- 土づくり
開園以来50年以上、園の下草、河川敷の草、油粕、鶏糞など動植物由来の有機物を施用することで、細い棒が1メートル以上入る柔らかい土壌を培う。



<現場の課題>

- 梅園の管理、製品の販売等は今後、高齢化等により労働力の確保が難しくなるため、作業工程の機械化が必要。

<今後の展開>

- これ以上の規模拡大ではなく、土づくりに専念し、樹木に最適な環境を作り、有機栽培の循環サイクルを次世代へ継続させる。



<基本情報>

所在地：鹿児島県いちき串木野市湊町

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場 約2ha（かんきつ等）
- 収穫体験が可能



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 父亡き後、土壌流出の発生や「さのう」※が固くなったと感じたことをきっかけに、土づくりが重要ではと考え、有機農業の基礎を文献で学び、平成9年に有機農業に転換。

※さのう：小さい果肉のつぶつぶを包む袋のこと。「さじょう」ともいう。この小さい果肉の集まりを包んでいる薄皮の事を「じょうのう」という。

- **平成27年（2015年）有機JAS認証取得。**

<販売について>

- 会員となっている有機生産組合経由で販売。
- その他、ネットやイベント販売の他、顧客へ直接販売。
- 自家製ポンカンジュース（原料は全て自園、720ml入）を、ネットやイベントにて販売。



<こだわり>

- 使用する苗木は、自園の優良樹から枝採取したものを直接、苗木生産業者へ委託し、接ぎ木したもの。

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
カイガラムシ対策として、有機JASで使用を認められているマシン油を必要最小限使用。
- 雑草対策
人力（草刈機及び手作業）。
- 土づくり
地元の畜産農家の堆肥に、米ぬか、黒砂糖、草本灰及び発酵菌により発酵させた有機ぼかし肥料を使用。



<苦労しているところ>

- 雑草の除草や害虫の防除
- 段々畑の石垣の保全

<今後の展開>

- 有機農産物の良さを分かってもらえる方に、購入頂きたい。そのため、消費者へ有機農産物の良さをもっとPRしたい。
- アボカドなどの亜熱帯性果樹の栽培。
- 自然の環境を活かし農場を人々に開放して交流の場として整備していきたい。



【お問合せ先】 TEL : 0996-36-2238

ホームページ : <https://ookubonouen.localinfo.jp/>